

七条中学校だより9月4号

京都市立七条中学校

令和8年9月4日

発行：校長 林 秀雄

リーダーシップとは？

2学期が始まり、七中祭に向けた合唱の部や体育の部の取組が本格的に始まりました。各学級では実行委員やパートリーダー、応援リーダーが活動を進め、生徒会や委員会でも七条中学校をより良くするための様々な企画や活動が進められています。こうした取組を見ていると、私は改めて「リーダーの存在の大切さ」を感じます。

みなさんは「リーダー」と聞くと、どのような人を思い浮かべるでしょうか。大きな声で指示を出す人。みんなの前に立って話をする人。強い意見で集団を引っ張る人。確かに、そのような姿もリーダーの一つです。しかし、近年のリーダーシップの研究では、リーダーとは単に人を動かす人ではなく、「仲間の力を引き出し、チーム全体を成長させる人」であると考えられています。

例えば、●練習がうまくいかない仲間に「大丈夫、一緒にやろう」と声をかける人●話し合いで発言が少ない人にも意見を聞こうとする人●自分だけが頑張るのではなく、みんなが活躍できる場をつくる人●困っている仲間に気付き、さりげなく手を差し伸べる人●誰よりも早く準備や片付けに取り組み、背中ですす人
こうした姿も立派なリーダーシップです。

合唱の部を例に考えてみましょう。よいパートリーダーは、自分が上手に歌う人とは限りません。仲間の声に耳を傾け、「どこが難しい？」「どうすればもっと良くなるかな？」と問いかけながら、みんなが歌いやすい雰囲気をつくれる人です。体育の部でも同じです。応援リーダーは、自分一人が目立つ人ではありません。仲間を励まし、挑戦する勇気を与え、失敗しても前向きな声をかけ、みんなの気持ちを一つにできる人です。生徒会や委員会活動でも、自分の意見を押し通すだけではなく、様々な意見をまとめながら、「どうすれば学校全体がよくなるか」を考えられる人が求められます。

近年注目される「サーバント・リーダーシップ」という考え方では、リーダーに必要な資質として、「人の話を聴くこと」「共感すること」「仲間の成長を支えること」「コミュニティをつくること」が挙げられています。つまり、これからの時代のリーダーは、「一番前に立つ人」ではなく、「仲間が前に進めるよう支える人」とも言えるのです。

今、七条中学校には、そのようなリーダーシップを発揮しようと頑張っている人がたくさんいます。時には悩むこともあるでしょう。思うように仲間に伝わらないこともあるでしょう。責任の重さを感じることもあると思います。しかし、その経験こそが皆さんを大きく成長させます。どうかリーダーの皆さんは、自分らしいリーダーシップを大切にしてください。そして周りの皆さんも、リーダー任せにするのではなく、積極的に協力し支えてほしいと思います。優れたリーダーは、一人では生まれません。支えてくれる仲間がいてこそ、リーダーは力を発揮できます。リーダーとフォロワーが互いに信頼し合い、支え合うことで、集団は大きな力を生み出します。

七中祭も、生徒会活動も、委員会活動も、一人の力では成功しません。みなさん一人ひとりが自分にできる役割を果たし、自分らしいリーダーシップを発揮するとき、七条中学校はさらに素晴らしい学校になるはずです。この2学期、リーダーとして挑戦する人をみんなで応援しながら、全校で最高の七中祭と学校づくりを実現していきましょう。

定期テスト2に向けて3「集める」から「分かる」へ、「分かる」から「できる」へ

これまでの学校だよりでは、「目標設定」と「計画の立て方」について考えてきました。目標を決め、計画を立てることは大切です。しかし、目標と計画だけでは結果にはつながりません。次に必要なのは、情報収集・基礎づくり（知識・技能の習得）と、理解・整理（情報を整理し構造化すること）です。これは勉強だけでなく、皆さんが取り組んでいる探究学習や七中祭の活動にも共通する大切なプロセスです。

テスト勉強でいう「情報収集・基礎づくり」とは、まず材料をそろえることです。教科書、ノート、ワーク、授業プリント、タブレットの学習資料など、テスト範囲の学習内容を集めます。そして、漢字や英単語、数学の公式、理科や社会の基本用語などを繰り返し確認し、基礎的な知識や技能を身に付けていきます。

しかし、ここで勘違いしてはいけません。それは、**ノートを眺めるだけ、ワークを終わらせるだけでは、本当の意味で学習したことにはならない**ということです。大切なのは、集めた情報を自分の頭の中で整理し、「なぜそうなるのか」「どことどこがつながっているのか」を理解することです。

例えば社会なら、出来事をただ暗記するのではなく、「なぜその出来事が起こったのか」「その後どのような影響があったのか」を矢印でつなげてみる。理科なら、「結果」だけでなく「理由」や「仕組み」を説明できるか確かめる。数学なら、公式を覚えるだけでなく、「どんな問題で使うのか」を考えながら問題を解く。**裏へ**

英語なら、単語だけでなく、文の形や意味のつながりを意識する。このように、バラバラの知識を結び付けることで理解が深まります。

おすすめしたいのは、「人に説明できるか」を基準にすることです。友達や家族に説明するつもりで内容を話してみてください。説明できないところは、まだ十分に理解できていない部分です。そこが次に学習すべきポイントになります。また、「分かったつもり」にも注意が必要です。教科書を読んで理解した気になっていても、実際に問題を解こうとするとできないことがあります。理解した内容を問題演習で確かめることによって、初めて本当の力になります。

皆さんは今、定期テスト2に向けて準備を進めています。まずは材料を集める。そして知識や技能を身に付ける。さらに、それらを整理し、自分なりに理解する。この過程を丁寧に進めることで、「覚えた」から「分かった」へ、「分かった」から「できる」へと成長していきます。

テスト本番まで10日ほどです。ぜひ、「何を覚えるか」だけでなく、「どう整理し、どう理解するか」を意識しながら学習を進めてください。その積み重ねが、定期テストだけでなく、将来につながる本物の学ぶ力を育ててくれるはずです。